

連絡会を振り返って

日本スポーツ少年団指導育成部会員
米谷 正造

私自身、このリーダー連絡会の前身であるリーダー研究大会のころから参加させていただいております。そして、以前に講評をやらせていただいた時には、「まず帰ったら行動を起こしてください。」ということをお願いしました。しかし、今回のリーダー連絡会では、「行動はどのブロックでもスタートしている。既に熟成させる時期にきている。」ということを実感しました。

おそらく、テーマとして毎年重複するものもあるとは思いますが、全体のレベルが向上していく中で同じ問題に突き当たることは避けられないでしょう。また、それを全国のいろいろな方と話す中で、新しい気づきもあると思います。私はそれもこの連絡会の意義であると思います。

それぞれ6つの分科会を私なりに整理させていただきますと、「都道府県におけるリーダー研修の現状とブロックリーダー研究大会との連携」については、ひとつの県だけの活動や検討ではなかなか次のステップを踏むことが難しい点をブロックで話し合いそれを自県に持ち帰ることでステップアップしていく、すなわち『発展』と言えるのではないのでしょうか。次に、「地元を離れるリーダーのリーダー活動を支える方法」については、『維持・継続』、「リーダー活動の知名度を向上させる方法」については、スポーツ少年団に対するより広い『理解』と言えるでしょう。

また、「指導者養成・研修におけるリーダー育成の位置づけと方策」については少年団指導者、組織の人びとによる『リーダーの理解・認識』、「リーダー育成担当者の発掘と支援の方法」については、育成担当者はリーダー育成におけるキーパーソンの一人でありその交代がリーダー活動へ与える影響の大きいことから、いかに『再生産』できるかということだと言えます。そして、「リーダー育成の仕方」これはまさに『方法論』です。実際に指導者・組織の方がリーダーの育成・発掘に関わっていくまさにそういう部分だと思えます。

全国にはさまざまなリーダー、指導者・育成担当者の方がいらっしゃいます。また、それぞれが置かれている立場やステージも違います。このように整理させていただいたのは、皆さんの貴重な力をどこに傾倒し、そしてそれをより有効に活用していただくためです。あるいはこのような整理ができたのは、これまで何度も全国リーダー連絡会を積み重ねてきたおかげであると考えています。

最後になりますが、一番大切なことは「リーダー活動を含めスポーツ少年団活動は、子どもから成人になっても、自分の子どもが生まれても、それ以降でも関わっていくことのできる地域のスポーツ活動であり、居場所のひとつである。」ということであらためて理解していただくことです。このことを再確認して、今後の団活動、リーダー活動、指導、リーダー会の発展に寄与していただければと思います。